

令和 4年度

## 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1491500060	事業の開始年月日	平成25年10月1日
		指定年月日	平成25年10月1日
法人名	ミモザ株式会社		
事業所名	ミモザ湯河原温々		
所在地	(〒259-0301) 神奈川県足柄郡湯河原町中央2-8-3		
サービス種別 定員等	認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 エット数 2エット
自己評価作成日	令和4年12月28日	評価結果 市町村受理日	令和5年2月22日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください

基本情報リンク先	
----------	--

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

昨年度に続き今年も同じ理念を掲げて定着させたいと思います。「安全とゆとりのある介護」スローガンは「コミュニケーションを通じて自覚と思いやる心を忘れずに」を継続し、スタッフ一同再認識しています。コロナ感染症がまだ収束しない中、出来る限りご入居者様が笑顔で過ごして頂けるように室内レクリエーションや行事を取り入れています。又、施設で発行しているミモザ通信は好評です。ご家族や地域の方からもお褒めの言葉を頂いています。本社からの環境整備点検も高評価を頂きました。玄関に来所される方は皆様「綺麗な施設ですね。」と言われます。体調管理面では訪問診療、訪問看護と24時間連携を取り合い緊急時対応も早急な対応が出来るようにスタッフの研修を行っています。

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	ナルク神奈川福祉サービス第三者評価事業部		
所在地	神奈川県横浜市西区南浅間町8-22-207		
訪問調査日	令和5年1月15日	評価機関 評価決定日	令和5年2月13日

### 新型コロナウイルス感染防止の観点から書類調査方式とする 【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

<b>【事業所の優れている点】</b> ◇充実した医療連携体制 協力医療機関の内科医師は、月2回訪問診療（全員対象）し、訪問看護師が、毎週利用者の健康状態を確認している。また、皮膚科医、歯科医の訪問診療も行っている。入所前から、かかりつけ医に通院している場合は、診断結果や薬の変更などを、協力医療機関に伝えて情報共有している。重度化した場合や終末期への対応として、医師・看護師・家族ときめ細かい連携を取り、利用者の支援にあたっている。 ◇職場30分研修の実践 年間計画に基づき毎月「職場30分研修」を行っている。認知症ケア、プライバシー保護、非常災害時対応、倫理・法令順守、介護度進行予防などにつき、職員が輪番の担当となり、学びを深め、業務に反映させている。 <b>【事業所が工夫している点】</b> ◇職員資質向上にむけての取り組み 月2回、管理者と職員3名が参加する「アロー委員会」を開催し、運営面や業務内容を検討している。さらに、管理者が職員と個別に面談の場を設けて話し合い、コミュニケーションをとっている。いずれも、今後のサービスの在り方や、職員の成長を目指す取り組みになっている。
--

### 【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1 ~ 14	1 ~ 7
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15 ~ 22	8
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23 ~ 35	9 ~ 13
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36 ~ 55	14 ~ 20
V アウトカム項目	56 ~ 68	

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	さつきの家 (1階) うめの家 (2階)

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている
			2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	本社の理念は「高齢者の幸せな暮らしに貢献する」施設理念は「安全とゆとりのある介護」です。昨年同様管理者と職員はこの理念を共有し読み合わせして実践している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・今年度の事業所理念「安全とゆとりのある介護」を各フロアに掲示している。</li> <li>・毎月のフロア会議や職場30分研修で、理念に沿い、利用者が1日を安全に楽しく過ごせるよう、日々のケアに取り組んでいる。</li> </ul>	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に参加し回覧板にて地域と連携を取っている。昨年は神輿見学を行いました。施設の玄関前まできてお神輿を鑑賞出来ご入居者様皆様喜ばれていた。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自治会に加入し、毎年夏祭りの行事や地域防災訓練に参加していたが、今年度も昨年に引き続き、コロナ禍のため中止している。</li> <li>・ボランティアによる楽器演奏、紙芝居、保育園園児との交流なども、今年度は中止している。</li> </ul>	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設周辺の人々に対して外の掲示板に季節の行事やレクリエーションの写真などを掲げています。この施設は認知症の方が楽しく生活している事を理解していただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度もコロナ感染症収束せず運営推進会議は各役員、行政に郵送させて頂きました。内容は施設での人数、事故報告、介護度、平均年齢、行事予定等です。サービス向上の為のご意見ご鞭撻も記載お願いしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・例年、自治会長、民生委員、地域包括支援センター職員、地域住民が参加し、2か月ごとに開催していたが、現在はコロナ対応として書面方式とし、経営状況をメンバーに郵送している。</li> </ul>	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村との連携もその都度取り合い出席しています。ケアマネ交流会、コロナ感染症施設説明会、介護課からのマスク、手袋配布申請、介護保険申請等関わらせて頂いている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・町役場介護課と緊密に連携をとって、主手続きや利用者・運営について助言を受けている。コロナ対策用のマスク、手袋などの支給品を窓口に取りに行き、コロナ対応などの情報を共有している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	「身体拘束0作戦」ミモザ湯河原温々では身体拘束その他入居者（利用者）の行動を制限する行為を行いません。というポスターを各階と玄関に掲示し職員の意識向上を図っています。研修は年2回。身体拘束廃止委員会は2か月に1回開催している。	・職員は年2回の研修で身体拘束および虐待防止について学び、2か月ごとの身体拘束適正化委員会で事例をもとに理解を深めている。 ・職員は身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解し、身体的拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ミモザ湯河原温々では「虐待は絶対に起こさない。」宣言を掲げています。「ミモザ湯河原温々」ではご入居者様の尊厳を敬い、その方らしい生活を支援する事をここに誓います。のポスターを各階事務所、玄関に掲示している。	・職員は年2回「身体拘束および虐待防止に関する研修」に参加し、何が虐待になるかを学んでいる。 ・職員は、利用者に対する虐待の兆候を見逃さないよう、お互いに注意を払い、虐待の防止に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する制度の理解をする為に日常生活自立支援事業や青年後見人制度についての研修を行い、理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の締結、解約、改定の際には利用者や家族の不安や疑問が無いように説明し理解した上で書式を交わしている。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族の意見や要望は日頃から来訪時や電話で聞いている。ご指摘等は職員全員で真摯に受け止め、反省点も含めて話し合い納得出来る回答を心掛けています。個々に毎月状況報告書を郵送している。	・家族の意見・要望は、日ごろから来訪時や、電話で聞いている。月末に利用者の状況をお便りで家族に報告し、「ご意見ご要望記入用紙」を同封して、意見や要望を聞いている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月定期的にスタッフ会議やアロー委員会を開催している。その際職員の意見や提案を聞いて反映させている。	・管理者は、毎月のフロアごとの会議や月2回のアロー委員会（管理者、職員3名）、個別面談で業務効率化の提案や意見・要望などを聞き、運営に反映している。、	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の経験、資格等の実績や勤務状況等を考慮しスキル手当や環境整備手当を充実させている。各自が向上心を持って働けるように資格取得も奨励している。	・職員の経験や技術、勤務態度などを定期的に評価し、給与に反映させている。 ・職員が希望する本社の研修には積極的に参加を認め、介護福祉士などの資格取得も奨励している。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の介護ケアの研修を充実し、内外研修を応援している。働きながら必要な研修、交通費も提供している。30分研修も職員全員が講師になり学ぶ機会を提供している。	・年間計画に基づき毎月「職場30分研修」を行っている。認知症ケア、感染症予防、非常災害時対応、身体拘束および虐待防止等につき、職員が輪番で講師を勤め、職員の質の向上と日常の業務運営に反映させている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	行政が行う管理者交流会やケアマネ交流会に参加し同業者との連携を図っている。近隣の同じサービスとも連絡を取り合い情報共有している。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス開始の場合は本人が困っている事や要望を聞き取り、本人が安心する様に持っていく。声かけはその都度行い信頼関係を築く。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス開始の場合は家族が困っている事要望等を聞き取り、施設でのサービス内容を説明することで不安を除き信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人、家族が今必要な支援を見極め優先順位を付けてほかのサービスも含めた対応に努めていく。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご利用者はおお客様と云う立場は保ちつつ介護される側だけではなく暮らしを共にする同士で洗濯物たたみやテーブル拭き等のお手伝いをして頂いている。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族も同様に本人との絆を大切にしてください。面会制限の中でも短時間で玄関先の面会を開始したり、毎月状況報告書とミモザ通信を郵送している。		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人が大切にしている馴染みの関係や家族とに関係を継続する為に面会も玄関先で対面して頂けるようになった。	・家族や友人の来訪の際は歓迎し、ゆっくり過ごせるようにしている。コロナ禍であっても、玄関先での面会を開始した。電話や手紙など、引き続き関係継続が出来るよう支援している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う方や難聴の方、会話が苦手な方等の間に職員が介入し、孤立しないようにしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了になっても関係を断つことなくその後も相談や経過報告し状況を把握出来るようにする。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	個々の希望や意向を聞きながらできる事を行っている。外出ができない場合は玄関先まで同行し外の空気を吸っていただく。花壇のお花を鑑賞してもらう。	・職員は利用者との会話を多く持つよう心がけ、特に散歩や入浴など、1対1で接する機会にはゆっくりと思いを聞いている。 ・意思疎通困難な利用者には、家族の情報や利用者本人の仕草や表情から意向を汲み取っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	個々の生活、趣味、環境を聞き取り出来る限り支援していく。カラオケ、編み物、短歌、クイズ等提供する。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活の流れを把握し尊重し現状把握に努める。		

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員全員でケアの方針や現状を情報共有し介護計画を作成する。必要な課題について本人、家族の意見や意向を聞き計画に反映している。	・医師・訪問看護師の意見、本人・家族の意向、職員の意見、日常の生活状況を確認して介護計画を作成している。 ・短期目標は3か月、長期目標は6か月、1年とし、状態変化に応じて、個別に計画を見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活や状況を記録し、保管している。職員間でも情報共有し見直しが必要な場合は記録に残し介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族に於いて既存のサービスに捉われない柔軟な支援や対応をしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源を把握し個々が心身の力を発揮し、安全で豊かな暮らしを楽しむ事が出来る様に支援している。		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	訪問診療は定期的に受診し、本人の健康管理を行う。訪問診療と事業所の連携も取れて24時間対応可能である。	・内科医の訪問診療が月2回、同医療機関看護師が毎週訪問し、24時間医療連携体制をとっている。 ・2か月ごとに皮膚科医、毎月の歯科医の訪問診療がある。	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員の看護師や訪問看護師との連携も取れている。利用者の体調管理を行い、急変の対応や応急処置を行う。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院した際は安心して治療が出来、早期退院に向けて情報共有を行う。医療連携報告書や看護サマリーを頂き職員全員が把握出来、支援出来る様にする。		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化看取りに関しては本人家族の意思の確認を行い、見取りの同意書を取り交わしている。医療連携を取り合い情報を共有している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・入所時に重度化や終末期に向けた事業所の指針を本人と家族に説明している。</li> <li>・看取り方法を家族に説明し、終末期には、医師・看護師・家族と事業所が連携して支援する体制がある。</li> </ul>	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	事故発生時の緊急連絡網やマニュアルを用いて30分研修や定期的カンファレンスを行い実践に役立っている。		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害対策については地域の避難場所や緊急連絡先を職員全員に周知している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・年2回夜間想定を含めて避難訓練を行っている。(6月は消防署員指導の下で地震・火災通報・避難誘導・消火の訓練を行った。)</li> <li>・飲料水や食料品等、災害時の必需品リストを作成し、倉庫に備蓄して管理している。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	1人1人の人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を心掛けている。利用者が認知症であることを自覚し、対応出来る様に教育している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・職員は30分研修で、接遇やプライバシーに関する研修を受け、利用者の尊厳を損ねない対応や言葉かけを心掛けている。</li> <li>・職員に、不適切な態度や言葉使い等が見られた場合は、管理者が個別に注意している。</li> </ul>	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で利用者が意志決定出来る様に導く。コミュニケーション能力も介護の中では重要な位置を占める事を教育指導している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日々の生活がその人らしい暮らしになる様に支援しどのように過ごしたいか希望を導いて支援する。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	その方らしい好みの身だしなみが出る様に支援する。選択肢を尊重し本人が納得出来る様に支援する。		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の好みや好き嫌いや量や形態も把握し、できる事はお手伝いして頂いて提供する。鶏肉禁、青魚禁のご利用者には代替品を提供している。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・利用者の好みを把握し、誕生会やお楽しみの食事会に反映している。</li> <li>・利用者の状態に応じ、きざみ食、ミキサー食を提供している。</li> <li>・利用者はできる範囲で、お盆やテーブル拭きを手伝っている。</li> </ul>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事管理も管理栄養士の元、カロリー、塩分、計算されている。水分補給は定期的に行い摂取量を記録している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアは欠かさず行い出来ない方は職員が支援している。		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	個々の排泄パターンを把握し、時間毎に誘導介助を行っている。車椅子の方にもトイレでの排泄を行って頂き自立支援を行っている。3日排便がない方は内服薬投与して様子観察を行う。	・排泄チェック表をもとにパターンを把握し、時間や利用者の仕草、様子から、そっと声掛けをして利用者に合ったトイレ誘導を支援している。 ・夜間は定時2回と必要に応じてトイレに誘導している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は水分多めにしたり、腹部マッサージや体操等行い排便が出やすく工夫する。		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	入浴は週2回午前中行う。入浴拒否の方には無理強いせず臨機応変に対応している。職員はゆっくり会話しながら着脱入浴介助を行い利用者の全身観察を行っている。	・週に2回午前中の中の入浴を基本とし、入浴したくない利用者には無理強いせず、時間や日を変えて声掛けしている。 ・入浴を利用者と職員が1対1でゆっくり話せる良い機会と捉え大切にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の安眠や休息の生活パターンを把握し日中はリビングで過ごされたり、お昼寝されたりしている。本人の意向に沿った支援を支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の服薬管理や処方箋の確認を行い、薬の目的や副作用を理解している。毎食後、寝る前の与薬は職員が管理している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節の行事やレクリエーション、お楽しみメニュー等を工夫して提供している。各リビングには掲示板があり、毎月行事の写真を張り出し季節感溢れる装飾をしている。		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出支援はコロナ禍なので制限しています。玄関先の花壇を鑑賞したり日光を浴びて頂いている。	・コロナ禍のため外出を控えているが、天候の良い日には利用者の体調に配慮し、玄関先で栽培した花を見ながら、外気浴をしている。	利用者の健康維持と気分転換のために、天候の良い日は散歩、外気浴を奨励し、室内でも体操や歩行の時間を設けるなど、今後も継続することが期待されます。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭管理は家族や後見人が主なので施設ではカット代や歯磨き粉、口腔ケア用品、オムツ代等を預り金として管理している。本人が希望すればお財布を持っている方もいます。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族や友人に本人が連絡したい場合は電話して通話する支援も行う。お手紙のやり取りもお手伝いしている。		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は毎日清掃している。四季を通して居心地良い環境を提供している。時間ごとに換気を行い、感染予防に努めている。混乱を招くような音、匂い、光などは避けて季節感を取り入れる装飾をしている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>共有空間は照明や換気に配慮して明るく心地よく過ごせるようにし、温湿度管理は職員が利用者の様子を見ながら、調整している。</li> <li>季節ごとにクリスマス、ハロウィン、正月等の飾りつけをして、季節感を採り入れている。</li> </ul>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	個々の生活空間を尊重し席も好きな場所に座って頂いている。自分の落ち着く空間を提供している。		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人の馴染みの物や大切な物を自室に置き仏壇なども置いていただいている。趣味や好みを本人が見える場所に飾っている。職員は毎日清掃し、定期的にシーツ交換を行っている。	<ul style="list-style-type: none"> <li>利用者は使い慣れた家具や仏壇を持ち込み、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。</li> <li>職員による清掃が行き届き、室内は清潔で居心地よく過ごせるようになり、職員と一緒に掃除をする利用者もいる。</li> </ul>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全な環境で生活出来るように工夫している。バリアフリーで手すりがあり、歩行や立ち上がりや移動が安全、かつ自立して生活が送れている。		

事業所名	ミモザ湯河原温々
ユニット名	さつきの家

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の
			2, 利用者の2/3くらいの
			3, 利用者の1/3くらいの
			4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまにある
			4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			○ 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安な区過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と
			2, 家族の2/3くらいと
			3, 家族の1/3くらいと
			4, ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1, ほぼ毎日のように
			2, 数日に1回程度ある
			3, たまに
		○ 4, ほとんどない	
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)		1, 大いに増えている
			○ 2, 少しずつ増えている
			3, あまり増えていない
			4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が
			2, 職員の2/3くらいが
			3, 職員の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が
			2, 利用者の2/3くらいが
			3, 利用者の1/3くらいが
			4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が
			2, 家族等の2/3くらいが
			3, 家族等の1/3くらいが
			4, ほとんどいない

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている			
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している			
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている			
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。			
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている			
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している			
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている			
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている			
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている			
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている			
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている			
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている			
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている			
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている				
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている				
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。				
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている				
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている				

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している			
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している			
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。			
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている			
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている			
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している			
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている			
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる			
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている			

自己評価	外部評価	項 目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している			

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている				
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている				
53		○共用空間における一人ひとりの居場 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている				
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている				
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している				

# 目標達成計画

事業所名

ミモザ湯河原温々

作成日

令和5年2月13日

## 【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	49	コロナ禍が落ち着い、きてはいるが、外出支援はなかなか難しく、制限もどこまで決めていいか思案している状況です。	ご利用様が安全に、安心して外出できるよう支援していきたいと思ひます。	敷地内での花壇の水やりのお世話をさせていただいています。また、室内でのレクリエーションなども行っています。玄関先でお天気の日には日光浴をしていただく。	3か月
2					
3					
4					
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。